

＜メディアウオッチ＞ 見逃がせない福島原発「初公開」の取材規制問題

上出 義樹

東京電力福島第一原発が11月11、12の両日、事故後8カ月ぶりに初めて報道陣に公開され、マス・メディアの記者・カメラマンらによる原発敷地内の取材が行われた。新聞やテレビニュースをすべて見たわけではないが、これまでの東電や政府からの提供写真、映像に比べ、質の高さや迫力はさすがだった。ただ、今回の「初公開」にはメディアの選別など、ゆゆしき取材規制問題が絡んでいることを見逃してはならない。

フリー記者ら排除 当初の政府案には映像・写真の「検閲」も

まず問題なのは、今回の取材は新聞・テレビ各社と外国プレス代表だけに認められ、法令に従順な大手メディアに代わり原発の周辺で危険な取材や撮影を担ってきたフリー記者らが排除されたことである。

福島第一原発の敷地内での取材は、各メディアやフリー記者らがこれまで強く要望してきたが、なかなか実現せず今回、細野豪志・原発担当大臣（兼環境相）に同行する形でやっと取材が認められた。しかし、取材を許されたのは、いわゆる既存メディア（「記者クラブ」メディア）の記者・カメラマンらで、内閣記者会の常勤幹事社の新聞・テレビ19社と、地元の福島県政クラブ加入の7社、それと外国プレスの代表取材（記者・カメラマン等）。フリー記者らは代表取材の方法を含め、細野大臣や園田康博政務官らに強く働きかけたが、放射線防護対策や参加人数などの物理的制約を理由に、ニコニコ動画などのネットメディアや雑誌とともに同行取材から除外された。

報道全体の問題として対応を

取材担当窓口の内閣官房が11月初旬に発表した「取材ご案内」文書には「取材後、東京電力関係者が、構内で撮影された映像や写真を確認させていただきます」と、「検閲」条項が堂々と盛り込まれていた。フリー記者は結局、こうした「報道統制」の邪魔になるということが、同行取材から排除する本当の理由なのだろう。

さすがに、「検閲」条項は一部報道機関や外国プレスの抗議で削除されたが、原案の段階とはいえ、こんな条項が登場するとは、記者クラブも随分なめられたものである。

ただ、朝日新聞の13日付記事などは、フリー記者が除外された事実や、同紙が「検閲は憲法違反」として抗議したことなど、今回の取材規制問題をそれなりに報じている。福島原発の敷地内取材は国民の安全に大きく関わる事柄だけに、「フリー記者排除」などの取材規制を報道全体の問題として、大手メディアも本腰で取り上げてほしい。

また、今回の取材映像などを一定の条件下でマス・メディアがフリー記者や市民団体等に提供。共有情報として活用できる仕組み、方法があってもよいのではないか。

（かみで・よしき） 北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院（新聞学専攻）在学中。